

28P1-am224

バナナの経口投与による免疫賦活作用
○岩澤 晴代¹, 山崎 正利¹(¹帝京大薬)

【目的】バナナには神経伝達物質であるドパミンやセロトニンを多く含み、抗酸化作用や免疫賦活作用を有することを報告してきた。また、この免疫賦活作用には品種や熟度によって差があることも報告した。今回はバナナジュースの経口投与における免疫賦活作用を、サイトカイン誘導能により検討した。

【方法】通常種と高地栽培種の2種のバナナを用い、熟度を2点設定して、抽出上清をICR雄マウスに経口投与した。14日後、腹腔細胞を取り出し、TNF- とIL-12誘導能についてELISA法により測定した。

【結果および考察】すべてのバナナ投与群で、TNF- およびIL-12誘導能がコントロールよりも上昇していた。また、同じ品種でも熟度によって誘導量が異なり、同じ熟度でも品種によって誘導量が異なっていた。このことから、これまでに報告してきた腹腔内投与による免疫賦活作用が、バナナの経口摂取によっても実際に起こることが判明した。またこの作用には品種や熟度により差があり、適度な熟度のバナナを食することによって、免疫防御に好影響を与えたと考えられた。